

2024年度春季 ICYE Japan海外ボランティアプログラム 参加報告書

参加プログラム：インドネシア 日本語教育



大学の授業にて



文化祭での集合写真



文化祭で日本食を作る様子

1. 参加目的

私がこのプログラムに参加した目的は、外国の日本語教育の実態を知ることと海外の人から日本はどのように見えているのかを知ることであった。まず、日本語教育について、私は学部で日本語教育の授業を受講しているので学んだ知識を実際場で応用することができるのか、そして現地でのどのような問題が生じているのかに興味を持っていた。留学以前にも日本語ボランティアや授業を通して日本語学習者と交流する機会があったのだが、日本にいる学習者なので既に日本語のレベルも高く学習環境もかなり整っている人が多かったため母国での苦労や課題についてはあまり詳しく知ることができなかった。また、日本にいれば日本人にとっては当たり前だけど海外の人からすると魅力的なものや表面的でない日本のいいところがなかなか見つけれないのでこのプログラムに参加して外から見た日本を見てみたいと思った。

2. ボランティア実習内容について

今回のボランティアで私は高校・大学での日本語教育のコースを選択した。一週目と二週目は高校で日本語の授業でプレゼンをしたり、巻き寿司を作ったり、折り鶴を折ったりした。この高校での活動は日本語教育というよりは日本文化の授業をするという形であった。また、高校の日本語の授業がない日は、技能実習生を目指す学生のための日本語学校にも訪れた。そこでは会話の授業や漢字の授業など、かなりレベルの高い日本語学習のサポートをした。三週目は現地の大学の国際交流プログラムに一週間参加した。このプログラムでは日本語教育ということはあまりせず、日本の環境意識や災害対策、文化についての発表を行った。日本人ボランティアや現地のインドネシア人だけでなく、イタリアやドイツからのボランティアも参加していたので彼らと交流することができ非常に有意義な時間となった。四週目は現地の大学の授業に参加した。内容は会話がメインであった。

3. プログラムを通して学んだこと

私はこのプログラムでたくさんを経験し、多くのことを学んだ。中でも最も印象が強かったのが人生の選択肢の広さである。インドネシアの人々は日本人より多様な生き方をしていると感じた。例えば職業である。私の滞在していたスマランでは、道路でパフォーマンスをして小銭を稼いでいる人たちが小さな屋台を引いてお金を稼いでいる人たちがたくさんいた。こういった状況は多くの場合、発展途上国の特徴で改善すべき課題として捉えられることが多いのだが、私は彼らがその生活スタイルを改善するべきだとは思わなかった。むしろ、近くの飲食店で働いている人や同業者と会話を交わしながら働いているのが羨ましいと感じた。その他にも、日本で数年間働いた後に大学に入学した学生や留学エージェントで働きながら米を栽培・販売している人など様々なライフスタイルがあった。この経験を通じて私も自分の進路を広く捉えられるようになったと思う。

4. ボランティアプログラムを終えての感想

今回のプログラムで、私は様々な新しい気づきを得ることができたと感じる。それはインドネシアの文化や考え方だけでなく、自分自身についてもである。例えば、自分のコミュニケーション能力についてである。私は渡航前から英会話に苦手意識は持っていなかったものの、英語しか通じない環境に1ヶ月も滞在したことはなかったので、コミュニケーションという点に不安を感じていた。しかし、実際に話してみると現地でスタッフやインドネシア人の友達と滞りなく会話をすることができた。自分の英語が他の国でもここまで通用するとは思っていなかったので嬉しい発見ができた。また、自分はかなり環境適応能力が高い方だということにも気づくことができた。異国の地で1ヶ月不満をあまり感じず楽しんで過ごすことができたのは、今後新しいことにチャレンジする際に1つ大きな自信になると思う。